

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：33920

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2019

課題番号：26502016

研究課題名(和文)聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討

研究課題名(英文) Study of the ideal way of care for the elderly, disabled and dementia from the viewpoint of hearing communication impairment

研究代表者

内田 育恵 (Uchida, Yasue)

愛知医科大学・医学部・准教授

研究者番号：80313998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究Aでは、聴覚による身体障害者手帳所持者の追跡調査を行った。補聴器交付券利用者は、有効回答者の83%で、補聴器使用状況、有効性、生活の質に関する評価は全般的に高かったが、補聴器があっても活動制限は依然としてあるという結果も得た。研究Bはもの忘れ外来受診高齢難聴者への補聴器6ヶ月間貸出研究で、補聴器使用と認知機能の関連を検討した。認知機能の汎用検査であるMini-Mental State Examination (MMSE) で27点以下の認知機能低下者では、補聴器導入6ヶ月間前後で有意な差はなく認知機能維持が示された。ことばの弁別能不良例も補聴器の継続で認知機能維持ができたことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本課題内の特に研究Bで得たデータは、認知障害のある難聴者を対象として補聴器の効果を評価した国際的先行研究に匹敵する対象規模である。MMSEの小項目である見当識、記憶、注意と計算、言語について、聴力と関係するのはどの領域か、また補聴器の有効性が出やすい領域があるのかについて、詳細を解析して論文化作業中で、国際誌に報告を予定している。認知障害のある難聴者の精密な評価や追跡は容易ではないため、本研究で得られた結果は学術的にも、また難聴と使用言語による関連も考慮すると日本における研究成果という点で、社会的にも意義のある実証になった。

研究成果の概要(英文)：In Study A, we conducted a follow-up survey of persons with a disability certificate by hearing. Eighty three percent of respondents received a publicly delivered hearing aid, and the evaluation scores on the hearing aid usage, effectiveness and quality of life of the users were generally high, but even with hearing aids, activity restrictions still remained. Study B was a hearing aid 6 months trial study for hearing-impaired older outpatients visiting the memory clinic, which examined the influence of hearing aid use on cognitive function. Those with a cognitive decline of 27 points or less in the Mini-Mental State Examination (MMSE), which is a global cognition test, showed cognitive function maintenance without significant difference about 6 months after the introduction of the hearing aid. It was also shown that cognitive function could be maintained by continuing hearing aids usage even in cases of poor speech discrimination.

研究分野：耳科学、聴覚学

キーワード：認知機能 難聴 高齢 補聴器 MMSE

1. 研究開始当初の背景

聴覚障害は、加齢とともに有病率が高くなる代表的な老年病で、2012年報告の我々の調査では全国高齢難聴者数は約1,500万人と推計された(内田ら,日老医誌 2012:222-227)。聴覚はコミュニケーション機能の一翼を担っており、障害をきたすと本人だけでなくコミュニケーション対象者にも影響が及ぶ点が他の感覚機能と決定的に違う。我が国では高齢者のいる世帯は全体の4割に上り、支え、支えられる共助ケア関係増加が見込まれる。

聴力障害がもたらすコミュニケーション障害への対策のひとつに補聴器があるが、欧米各国に比較して日本では中等度以上の難聴者の補聴器所有率が極端に少ない。欧米との統一内容による国内15,000人規模の抽出調査によると、難聴者比率は欧米諸国と近似していたものの、その難聴者における補聴器所有率は、ドイツで34.0%、英国で41.1%、米国で24.6%であったのに比べ日本では、難聴申告者の14.1%しか補聴器を所有していなかった(JapanTrak 2012,(社)日本補聴器工業会)。

聴力障害は、個人や社会に様々な不利益をもたらす。調査開始時に抑うつ症状のない高齢者の追跡調査では聴覚的ハンディキャップがあるとない群に比べて2.45倍うつ症状リスクが高い(Saitoら,J Am Geriatr Soc, 2010)。1日1時間以上補聴器を使用する者は、有意に抑うつ症状が低い(Gopinath Bら,J Am Geriatr Soc, 2009)。65歳以上の男性では、難聴者は非難聴者に比べて、3年後に要介護または死亡となるリスクが3.10倍になる(Michikawara,BMC Geriatr, 2009)など、聴力障害と各種不利益との関連のエビデンスが相次いで報告された。

2. 研究の目的

聴覚コミュニケーション障害からみたケアの在り方を考える上で、補聴器活用の実態や認知面からみた有用性や実用性を明らかにする必要がある。その目的で本研究課題においては、研究計画2本立てを遂行した。各計画の目的は次の通りである。

研究計画 A 聴覚障害者の補聴器公的交付後に関する報告はほとんどなく、標準的な介入方法は確立されていない。高齢化率の高い我が国においても、交付後のケアに関する指針がなく、補聴器装用者が補聴器を継続的に使用できているのか、補聴の効果はどうか不明である。成人の聴覚障害による身体障害者手帳所持者を対象に、福祉制度の補聴器交付事業で得た補聴器について、補聴効果の評価、補聴器の装用状況の実態を調査することを目的とした。

研究計画 B もの忘れセンター外来受診者で補聴器使用経験が無い者に補聴器を貸し出し、6ヶ月の追跡を行い、超高齢者や認知機能低下者が補聴器を正しく継続使用することは可能なのか？ 補聴器の適正使用により、さらなる認知機能低下を防ぐことは可能なのか？ 難聴者の補聴器装用の効果をコミュニケーション対象者はいかに評価するか？ などのリサーチクエスチョンを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

研究計画 A 愛知医科大学病院で補聴器交付手続きを受けた身体障害者手帳所持者を追跡して研究参加同意が得られた者に、補聴器の使用状況や満足度を調査した。評価尺度として、世界中で 24 言語に翻訳され結果の蓄積も多い International Outcome Inventory for Hearing Aids (IOI-HA) を用いた。試聴期間を含め補聴器開始から 3 ヶ月以上経過後に、郵送法または外来法のいずれかで回答を得た。

研究計画 B 国立長寿医療研究センターもの忘れセンター外来受診者で補聴器使用経験が無い難聴者に研究参加の同意を得たのち、耳鼻咽喉科において鼓膜チェック、純音聴力検査、語音聴力検査を行って補聴器を貸し出し、6 ヶ月間追跡し、その前後で次に示す各種評価を行った。

もの忘れセンター初診時に高齢者総合機能評価 (CGA : Comprehensive Geriatric Assessment) として行われている次の評価項目を用いた。

認知機能検査 Mini-Mental State Examination (MMSE)

基本的日常生活動作指標 Barthel Index

うつ傾向尺度 Geriatric Depression Scale 15

認知症周辺症状評価 Dementia Behavior Disturbance Scale (DBD)

家族の介護負担感評価 Zarit Burden Interview 日本語版

また聞こえと補聴器に関しては次の評価尺度を用いた。

Hearing Handicap Inventory for the Elderly (HHIE) 日本語版

Nursing Home Hearing Handicap Index, Staff version 日本語版 案

International Outcome Inventory for Hearing Aids (IOI-HA) 日本語版 案

日本聴覚医学会『きこえの評価—補聴前・補聴後—』

4. 研究成果

研究計画 A 聴覚障害による身体障害者手帳を所持し、愛知医大において 2011 年 10 月から 2018 年 3 月に補聴器交付を受け研究参加同意が得られた者に、郵送法と外来法で調査を行い、重複例等を除いた 33 名を対象に解析した。IOI-HA では、補聴器への評価を 1 問最大 5 点で 7 問に回答してもらい 35 点満点で高得点ほど高評価を表す。Chang らは対象の 90% 以上が 70dB 以下の聴力レベルである 208 名に対し、補聴器フィッティング 3 ヶ月後の IOI-HA を評価し (Acta Oto-Laryngologica, 2016) 総得点平均約 24 点であったと報告している。本対象は聴力障害がもう少し高度であるが、総得点平均は 26.1 点であり、補聴器交付事業による補聴器が、手帳所持者に一定の評価を得ていることがわかった。細項目では、補聴器の使用状況、有効性、満足度、生活の質に関する評価は全般的に高かったが、補聴器があっても活動や参加制限があるかに関する設問では、満足度は不十分であった。これらの結果は「当科における聴覚による身体障害者手帳所持者の追跡調査」という演題名で、第 173 回東海地方部会連合会 (2018 年 6 月 10 日) にて報告した。

研究計画 B 国立長寿医療研究センターにおける、2014 年 9 月から 2019 年 1 月までの 4 年 4 ヶ月間の研究エントリー症例は 60 名で、補聴器導入後の追跡中に除外となったのは、死

亡 (n=2)、施設入所 (n=1)、補聴器継続ができず脱落 (n=9)、弁別能測定不能 (n=1) で、補聴器導入 6ヶ月前後の比較解析が可能であったのは 47 例であった。MMSE 総得点は、補聴器導入 6ヶ月前 20.6±5.7、後 21.0±5.0 で有意な差はみられず、認知機能は維持されていた。補聴器導入前 MMSE と比べて導入後 MMSE が悪化した者を認知機能悪化群、MMSE が不変または改善した者を認知機能維持群として分けると、補聴器導入前の語音弁別能が 25% や 35% と補聴器装用の効果を期待することが困難なケースも、補聴器を 6ヶ月間続けて、認知機能維持群に該当していた。追跡前 MMSE が 9 から 13 点と低値で認知機能低下が中等度以上のケースであっても、語音聴力検査を測定することができ良好な弁別能を示し、さらに 6ヶ月の補聴器使用継続も経て、認知機能維持群に含まれた例があることは特記すべき点である。認知機能や語音弁別能の不良例も、補聴器継続と認知機能維持という結果を得ることが可能であると実証できた。これらの解析結果については、第 63 回日本聴覚医学会 (2018 年 10 月 18 日神戸) にてシンポジストとして講演を、また [サブ解析] の一部について第 28 回日本耳科学会 (2018 年 10 月 6 日大阪) にて口演を、「もの忘れセンター受診高齢難聴者への補聴器 6ヶ月貸出研究—認知機能の推移と語音弁別能に注目した解析—」として論文報告を (Audiology Japan 62, 142~149, 2019)、演題名「もの忘れセンター受診高齢難聴者の聴覚ハンディキャップ」および「もの忘れセンター受診高齢難聴者の MMSE 下位項目と聴力の関係」として第 64 回日本聴覚医学会 (2019 年 11 月 8 日大阪) において口演で報告を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 22件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 58
2. 論文標題 【高齢者に対する包括的感覚器ケアと疾患治療】高齢者の難聴と認知症・フレイルの関連	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatric Medicine	6. 最初と最後の頁 133 ~ 136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 36
2. 論文標題 【難聴を治す-2020年版】難聴と認知症	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JOHNS	6. 最初と最後の頁 77 ~ 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 123
2. 論文標題 耳鼻咽喉科としての認知症への対応 聴覚障害	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本耳鼻咽喉科学会会報	6. 最初と最後の頁 333 ~ 338
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵, 杉浦 彩子, 中田 隆文, 伊藤 恵里奈, 吉原 杏奈, 清水 笑子, 近藤 和泉, 中島 務, 植田 広海	4. 巻 62
2. 論文標題 もの忘れセンター受診高齢難聴者への補聴器6ヵ月貸出研究 認知機能の推移と語音弁別能に注目した解析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Audiology Japan	6. 最初と最後の頁 142 ~ 149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中島 務, 内田 育恵, 杉浦 彩子, 寺西 正明, 片山 直美, 曾根 三千彦	4. 巻 62
2. 論文標題 一人暮らし高齢者の難聴自覚と補聴器使用状況	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Audiology Japan	6. 最初と最後の頁 134 ~ 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 122
2. 論文標題 超高齢社会における高齢者医療への対応 中年期以降の 'Hear well' の重要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本耳鼻咽喉科学会会報	6. 最初と最後の頁 744 ~ 749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 45
2. 論文標題 Digestシリーズ 新薬開発まで待てない認知症 (Vol.6) 聴覚障害補正と認知症予防	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medical Science Digest	6. 最初と最後の頁 299 ~ 300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 35
2. 論文標題 【リハビリテーションを理解する-方法と効果の評価】加齢性難聴に対するリハビリテーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JOHNS	6. 最初と最後の頁 925 ~ 927
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 233
2. 論文標題 【耳鼻咽喉科と認知症】難聴と脳萎縮	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ENTONI	6. 最初と最後の頁 1~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 30
2. 論文標題 【感覚機能の低下と認知症】聴覚の低下と認知症	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 156~161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵、杉浦 彩子	4. 巻 90
2. 論文標題 増刊号 患者・家族への説明ガイド-正しく伝え、納得を引き出し、判断を促すために .耳と聞こえのこと Q19. 認知症予備軍と言われた母ですが、補聴器は使えるでしょうか?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6. 最初と最後の頁 38~40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1411201583	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugiura Saiko, Teranishi Masaaki, Uchida Yasue, Nakada Takafumi, Sone Michihiko	4. 巻 61
2. 論文標題 Association between serum zinc levels and tinnitus, hearing loss, depression in community-dwelling middle-aged to elderly Japanese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 AUDIOLOGY JAPAN	6. 最初と最後の頁 154~159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4295/audiology.61.154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugiura Saiko, Yasue Minori, Uchida Yasue, Teranishi Masaaki, Sone Michihiko, Suzuki Hirokazu, Nakashima Tsutomu, Otsuka Rei, Ando Fujiko, Shimokata Hiroshi	4. 巻 2018
2. 論文標題 Prevalence and Risk Factors of MRI Abnormality Which Was Suspected as Sinusitis in Japanese Middle-Aged and Elderly Community Dwellers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BioMed Research International	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2018/4096845	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koide Y, Teranishi M, Sugiura S, Uchida Y, Nishio N, Kato K, Otake H, Yoshida T, Otsuka R, Ando F, Shimokata H, Hasegawa Y, Nakashima T, Sone M.	4. 巻 14
2. 論文標題 Association between Uncoupling Protein 2 Gene Ala55val Polymorphism and Sudden Sensorineural Hearing Loss	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of International Advanced Otology	6. 最初と最後の頁 166 ~ 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5152/iao.2018.5442	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Yasue, Sugiura Saiko, Nishita Yukiko, Saji Naoki, Sone Michihiko, Ueda Hiromi	4. 巻 46
2. 論文標題 Age-related hearing loss and cognitive decline ? The potential mechanisms linking the two	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2018.08.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Yasue, Nishita Yukiko, Kato Takashi, Iwata Kaori, Sugiura Saiko, Suzuki Hirokazu, Sone Michihiko, Tange Chikako, Otsuka Rei, Ando Fujiko, Shimokata Hiroshi, Nakamura Akinori	4. 巻 10
2. 論文標題 Smaller Hippocampal Volume and Degraded Peripheral Hearing Among Japanese Community Dwellers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Aging Neuroscience	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnagi.2018.00319	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakada Takafumi, Sugiura Saiko, Uchida Yasue, Suzuki Hirokazu, Teranishi Masaaki, Sone Michihiko	4. 巻 10
2. 論文標題 Difference in Serum Levels of Vitamin D Between Canalolithiasis and Cupulolithiasis of the Horizontal Semicircular Canal in Benign Paroxysmal Positional Vertigo	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Neurology	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fneur.2019.00176	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa Takaki, Uchida Yasue, Nishita Yukiko, Tange Chikako, Sugiura Saiko, Ueda Hiromi, Nakada Takafumi, Suzuki Hirokazu, Otsuka Rei, Ando Fujiko, Shimokata Hiroshi	4. 巻 83
2. 論文標題 Hearing-impaired elderly people have smaller social networks: A population-based aging study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 75 ~ 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2019.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 76巻増刊7
2. 論文標題 【老年医学(下)-基礎・臨床研究の最新動向-】高齢者の臓器別疾患 耳鼻咽喉疾患 高齢者難聴における補聴器適合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本臨床 老年医学(下)	6. 最初と最後の頁 207 ~ 211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵, 杉浦 彩子, 鈴木 宏和, 植田 広海, 曾根 三千彦, 中島 務	4. 巻 120
2. 論文標題 一般地域住民を対象とした難聴発生を予測する因子の縦断的検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本耳鼻咽喉科学会会報	6. 最初と最後の頁 923-931
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.3950/jibiinkoka.120.923	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵, 杉浦 彩子	4. 巻 60
2. 論文標題 加齢と補聴器 社会交流における補聴器の役割	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Audiology Japan	6. 最初と最後の頁 477-483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4295/audiology.60.477	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 211
2. 論文標題 老人性難聴の関連遺伝子	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ENTONI	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 75
2. 論文標題 【難聴と耳鳴の最新情報】 難聴と認知症	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学と薬学	6. 最初と最後の頁 207-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田 育恵	4. 巻 34
2. 論文標題 【耳鼻咽喉科医に必要な認知症の知識-認知症と高次脳機能障害】 認知症と聴覚 難聴と認知症	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOHNS	6. 最初と最後の頁 329-333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 恵里奈、杉浦 彩子、内田 育恵、吉原 杏奈、清水 笑子、近藤 和泉、中島 務	4. 巻 61
2. 論文標題 高齢難聴者のハンディキャップの自覚についての検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 AUDIOLOGY JAPAN	6. 最初と最後の頁 57~64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4295/audiology.61.57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Y, Nishita Y, Tange C, Sugiura S, Otsuka R, Ueda H, Nakashima T, Ando F, Shimokata H	4. 巻 8
2. 論文標題 The longitudinal impact of hearing impairment on cognition differs according to cognitive domain	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Front Aging Neurosci	6. 最初と最後の頁 article 201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnagi.2016.00201	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田育恵	4. 巻 42
2. 論文標題 特集「聴覚障害」 5. 老化と難聴	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Medical Science Digest	6. 最初と最後の頁 178-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦 彩子、竹内 さやか、久田 真未、住垣 千恵子、内田 育恵、中島 務、鳥羽 研二	4. 巻 53
2. 論文標題 認知症病棟における看護師による外耳道ケアの試み	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 164-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田育恵, 杉浦彩子, 中島 務, 植田広海	4. 巻 26
2. 論文標題 ミニシンポジウム「超高齢社会における耳科診療update」疫学的視点 - 近年の高齢者の難聴・認知機能・社会的孤立などの現況	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Otology Japan	6. 最初と最後の頁 155-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakashima T, Sugiura S, Naganawa S, Yasue M, Inui Y, Sakurai T, Uchida Y, Sone M, Teranishi M, Yoshida T, Ito K, Toba K.	4. 巻 16
2. 論文標題 Cerumen impaction shown by brain magnetic resonance imaging in patients with cognitive impairment.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int	6. 最初と最後の頁 392-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasue M, Sugiura S, Uchida Y, Otake H, Teranishi M, Sakurai T, Toba K, Shimokata H, Ando F, Otsuka R, Nakashima T.	4. 巻 12
2. 論文標題 Prevalence of Sinusitis Detected by Magnetic Resonance Imaging in Subjects with Dementia or Alzheimer's Disease.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Curr Alzheimer Res	6. 最初と最後の頁 1006-1011
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田育恵	4. 巻 53
2. 論文標題 高齢者の難聴と認知機能	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Geriatric Medicine	6. 最初と最後の頁 313-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田育恵	4. 巻 56
2. 論文標題 高齢期難聴がもたらす影響と期待される介入の可能性	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 音声言語医学	6. 最初と最後の頁 143-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.5112/jjlp.56.143	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田育恵	4. 巻 188
2. 論文標題 高齢者の聴覚異常感	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 MB ENT	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Y, Sugiura S, Sone M, Ueda H, Nakashima T.	4. 巻 Epub 2014
2. 論文標題 Progress and Prospects in Human Genetic Research into Age-Related Hearing Impairment.	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 BioMed Research International	6. 最初と最後の頁 Jul 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2014/390601	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Y, Sugiura S, Ueda H, Nakashima T, Ando F, Shimokata H.	4. 巻 11
2. 論文標題 The association between hearing impairment and polymorphisms of genes encoding inflammatory mediators in Japanese aged population	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 Immun Ageing	6. 最初と最後の頁 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12979-014-0018-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugimoto S, Fukunaga Y, Katayama N, Yoshida T, Teranishi M, Sugiura S, Uchida Y, Kamiya H, Oiso Y, Nakashima T.	4. 巻 4
2. 論文標題 Factors Contributing to Postural Sway in Patients with Diabetes in an In-Hospital Education Program.	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 Audiol Neurotol Extra	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3109/00016489.2013.803599	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田育恵, 杉浦彩子, 安江穂, 植田広海, 中島務	4. 巻 57
2. 論文標題 補聴器外来受診者の語音明瞭度 他年齢群と比較した超高齢群の特徴	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 Audiology Japan	6. 最初と最後の頁 195-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugiura S, Yasue M, Sakurai T, Sumigaki C, Uchida Y, Nakashima T, Toba K.	4. 巻 Suppl 2
2. 論文標題 Effect of cerumen impaction on hearing and cognitive functions in Japanese older adults with cognitive impairment.	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.12251	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安江穂, 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務	4. 巻 117
2. 論文標題 補聴器外来受診高齢者における語音聴力検査結果の検討	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 日本耳鼻咽喉科学会会報	6. 最初と最後の頁 1080-1086
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内田育恵	4. 巻 30
2. 論文標題 特集：よくわかる遺伝子4. 体質と疾患 1) 老人性難聴・突発性難聴	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 JOHNS	6. 最初と最後の頁 770-774
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田広海, 内田育恵, 岸本真由子, 土屋吉正	4. 巻 30
2. 論文標題 【こんなときどうする】 耳科学・聴覚領域 アブミ骨が見つからない!	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 JOHNS	6. 最初と最後の頁 1129-1131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務	4. 巻 170
2. 論文標題 高齢者のフレイル(虚弱)とリハビリテーション 難聴に対するリハビリテーション	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 Medical Rehabilitation	6. 最初と最後の頁 104-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計45件(うち招待講演 28件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 内田育恵, 土屋吉正, 岸本真由子, 車哲成, 谷川徹, 小川徹也, 植田広海
2. 発表標題 当科における聴覚による身体障害者手帳所持者の追跡調査
3. 学会等名 第173回東海地方部会連合講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵, 杉浦彩子, 鈴木宏和, 中田隆文, 中島務, 植田広海
2. 発表標題 もの忘れセンター受診高齢難聴者の語音弁別能とMini-Mental State Examination (MMSE) の関係
3. 学会等名 第28回日本耳科学会総会・学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵, 杉浦彩子, 中田隆文, 伊藤恵里奈, 吉原杏奈, 清水笑子, 近藤和泉, 中島務, 植田広海
2. 発表標題 もの忘れセンター受診高齢難聴者への補聴器6ヶ月貸出研究 - 語音弁別能に注目した解析 -
3. 学会等名 第63回日本聴覚医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水笑子, 伊藤恵里奈, 杉浦彩子, 内田育恵, 中田隆文, 吉原杏奈, 近藤和泉
2. 発表標題 補聴器外来受診高齢者におけるフレイルの実態
3. 学会等名 第63回日本聴覚医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川高生, 内田育恵, 杉浦彩子, 植田広海
2. 発表標題 地域住民における高次生活機能と聴力の関連
3. 学会等名 第63回日本聴覚医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 聴覚の低下と認知症 - 相互関連のメカニズム
3. 学会等名 第18回日本抗加齢医学会総会 感覚器シンポジウム ‘感覚器の障害が認知症の初期か’ (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 中年期以降の ‘Hear well’ の重要性
3. 学会等名 第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会パネルディスカッション「超高齢社会における高齢者医療への対応」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 中年期以降の "Hear Well" -くらしと聞こえの関係-
3. 学会等名 オーティコン国際シンポジウム 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 難聴と認知機能
3. 学会等名 日耳鼻大阪府地方部会が行う補聴器相談医資格更新のための講習会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢期難聴の影響 - バランス機能や認知機能
3. 学会等名 尾勢耳鼻咽喉科講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 ことばを聴きとる科学
3. 学会等名 第175回東海地方部会連合講演会 領域講習（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 なぜ「補聴器で認知症を予防できる」とは言えないのか
3. 学会等名 第8回 シグニア補聴器 最先端聴覚セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田育恵, 杉浦彩子, 鈴木宏和, 植田広海, 曾根三千彦
2. 発表標題 中高年期の脳容積と聴力の関係: voxel-based morphometryによる検討
3. 学会等名 第118回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内田育恵, 杉浦彩子, 伊藤恵里奈, 吉原杏奈, 清水笑子, 近藤和泉, 中島務, 植田広海
2. 発表標題 もの忘れセンター受診高齢難聴者への補聴器6ヶ月貸出研究 - MMSEの推移 -
3. 学会等名 第62回日本聴覚医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤恵里奈, 杉浦彩子, 内田育恵, 吉原杏奈, 清水笑子, 近藤和泉, 中島務
2. 発表標題 もの忘れセンター受診高齢難聴者への補聴器6ヶ月貸出研究 ケース分析
3. 学会等名 第62回日本聴覚医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 補聴器と認知症
3. 学会等名 第27回 日本耳科学会総会・学術講演会ランチョンセミナー (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasue Uchida; Yukiko Nishita; Takashi Kato; Kaori Iwata; Saiko Sugiura; irokazu Suzuki; Michihiko Sone; Chikako Tange; Rei Otsuka; Fujiko Ando; Hiroshi Shimokata; Akinori Nakamura
2. 発表標題 A link between hearing ability and brain volume in a middle-aged and elderly Japanese population revealed by voxel-based morphometry
3. 学会等名 International Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies (IFOS) Paris (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内田育恵, 岸本真由子, 杉浦彩子, 鈴木宏和, 中島務, 植田広海
2. 発表標題 高齢者の耳鳴に対する補聴器の効果
3. 学会等名 第16回日本抗加齢医学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内田育恵, 杉浦彩子, 鈴木宏和, 植田広海, 中島 務
2. 発表標題 一般地域住民を対象とした難聴発症を予測する因子の縦断的検討
3. 学会等名 第117回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤恵里奈, 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務
2. 発表標題 高齢難聴者のハンディキャップの自覚についての検討
3. 学会等名 第61回日本聴覚医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 杉浦彩子, 伊藤恵里奈, 中島務, 内田育恵
2. 発表標題 耳鳴を主訴に夜間救急を受診した重度耳鳴の3症例
3. 学会等名 第61回日本聴覚医学会総会・学術講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 健康長寿時代に期待される補聴器の新たな役割
3. 学会等名 第16回日本抗加齢医学会総会 ランチョンセミナー（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 聴力と認知機能 - 補聴器の役割
3. 学会等名 第17回補聴器適合研修会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢者の難聴と認知機能 - 補聴器の役割
3. 学会等名 東京都地方部会 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医更新のための講習会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢難聴者の実態と補聴
3. 学会等名 第4回認定言語聴覚士講習会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 聴力と認知機能・脳容積の関係 日本の地域住民対象研究より
3. 学会等名 The International Symposium on Hearing Loss and Dementia/Depression (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 市民セミナー：えっ？こんなにも重要だった「聞こえ」のこと ~わたしたちのくらしと「聞こえ」の関係~
3. 学会等名 中日新聞社主催「悠々自適倶楽部」セミナー (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内田育恵, 岸本真由子, 杉浦彩子, 中島 務, 植田広海
2. 発表標題 聴覚の身体障害者に関する補聴器交付後調査
3. 学会等名 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yasue Uchida
2. 発表標題 Food consumption and hearing impairment in aged population
3. 学会等名 The 30th Politzer Society Meeting , July 1, 2015 Niigata (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yasue Uchida
2. 発表標題 Cognitive function and hearing in the elderly.
3. 学会等名 13th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 加齢性難聴のエイジングケア
3. 学会等名 第15回日本抗加齢医学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢期難聴の社会経済的影響を考える
3. 学会等名 愛知県耳鼻咽喉科医会 名古屋地区研修会「名耳会臨床医のつどい」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 疫学的視点 近年の高齢者の難聴、認知機能、社会的孤立などの現況
3. 学会等名 第25回日本耳科学会 ミニシンポジウム「高齢化社会における耳科学update」 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵, 岸本真由子, 杉浦彩子, 伊藤恵里奈, 中島 務, 植田広海
2. 発表標題 高齢者の耳鳴対策として行う補聴器適合の経験
3. 学会等名 第38回補聴研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 加齢性難聴とその予防
3. 学会等名 第17回日本健康支援学会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 パネル討議 2 難聴と認知症
3. 学会等名 睡眠と認知症ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢者の認知機能と難聴 補聴器適合の有用性と課題
3. 学会等名 南西多摩耳鼻咽喉科医会学術講演会(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 国内外の疫学研究による加齢性難聴 新知見
3. 学会等名 第4回臓器連関研究シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢期難聴がもたらす個人への不利益と社会的影響
3. 学会等名 第25回日本老年医学会東海地方会 教育企画 (招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢期難聴がもたらす影響と期待される介入の可能性
3. 学会等名 第59回 日本音声言語医学会総会・学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 知っておきたい。高齢者の認知機能と難聴の関係
3. 学会等名 第59回岡山耳鼻咽喉科フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 加齢に伴う聴覚障害への取り組み
3. 学会等名 一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会 保険医療委員会ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 遺伝子多型と加齢性難聴リスク
3. 学会等名 第2回先進感覚器研究コアセンター講演会(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵
2. 発表標題 高齢者への対応 - 耳鳴り・難聴
3. 学会等名 第39回愛知県耳鼻咽喉科研修会(合同研修会) 教育講演(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田育恵, 岸本真由子, 杉浦彩子, 中島 務, 植田広海
2. 発表標題 聴覚の身体障害者に関する補聴器交付後調査
3. 学会等名 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 内田育恵, 杉浦彩子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 全日本病院出版会	5. 総ページ数 145 (p.58-64)
3. 書名 睡眠からみた認知症診療ハンドブック - 早期診断と多角的治療アプローチ - 5. 聴力低下と認知症	

1. 著者名 内田育恵	4. 発行年 2016年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 672 (p.611)
3. 書名 耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修ノート 改訂第2版 トピックス 1. 老化とアンチエイジング 難聴	

1. 著者名 内田育恵, 杉浦彩子, 植田広海	4. 発行年 2014年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 260-270
3. 書名 《ENT臨床フロンティア》シリーズ『子どもを診る・高齢者を診る 耳鼻咽喉科外来診療マニュアル』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	植田 広海 (Ueda Hiromi) (20213358)	愛知医科大学・医学部・教授 (33920)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	櫻井 孝 (Sakurai Takashi) (50335444)	独立行政法人国立長寿医療研究センター・その他部局等・その他（移行） (83903)	
研究分担者	鳥羽 研二 (Toba Kenji) (60155546)	独立行政法人国立長寿医療研究センター・その他部局等・その他 (83903)	
研究分担者	杉浦 彩子 (Sugiura Saiko) (90420380)	独立行政法人国立長寿医療研究センター・その他部局等・その他 (83903)	